

GAPアップデートフォーラム

# ASIAGAP/JGAPアップデート

2021年2月26日

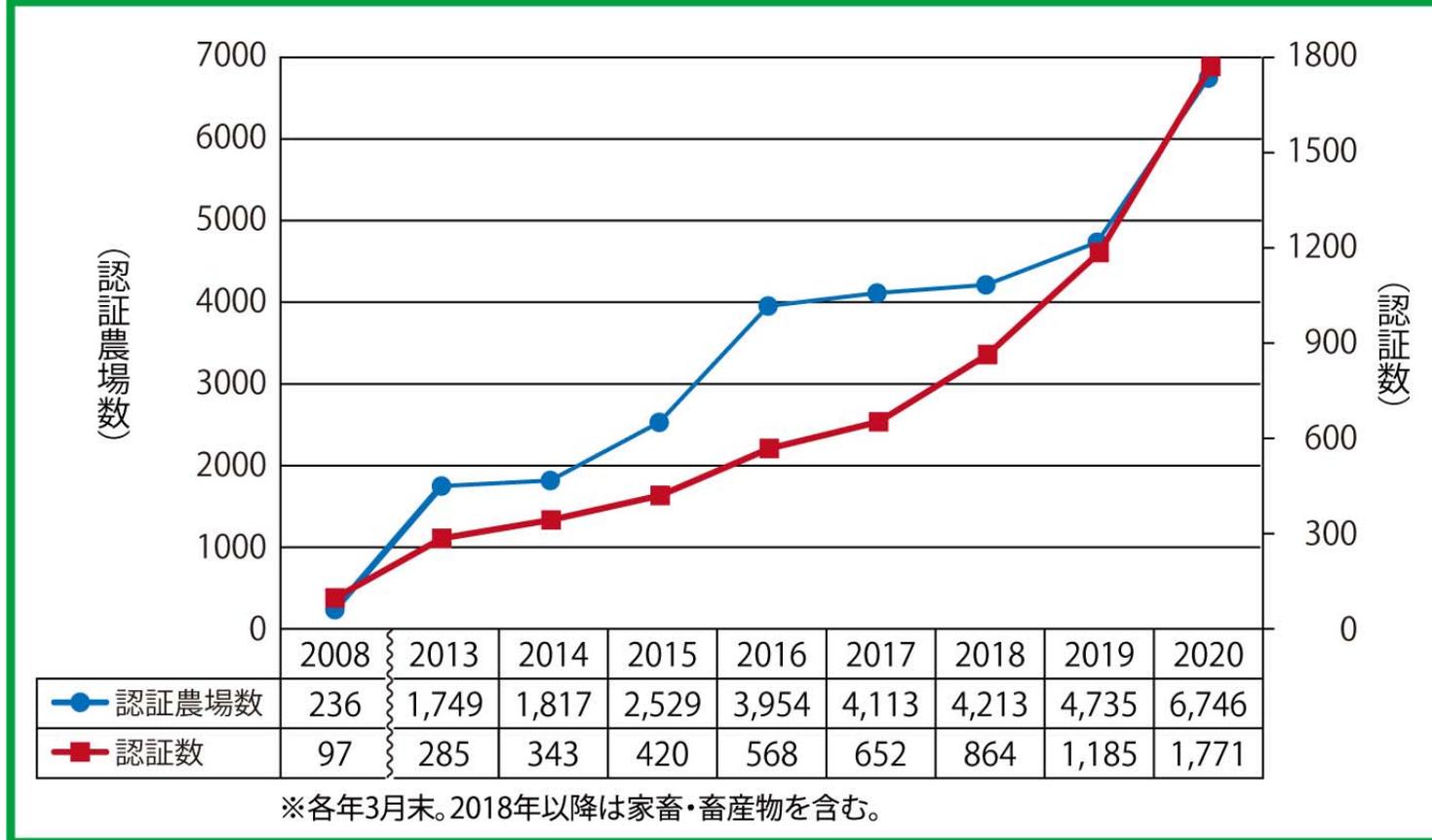
一般財団法人日本GAP協会

事務局長 荻野 宏

# 1. コロナ禍までのASIAGAP/JGAP

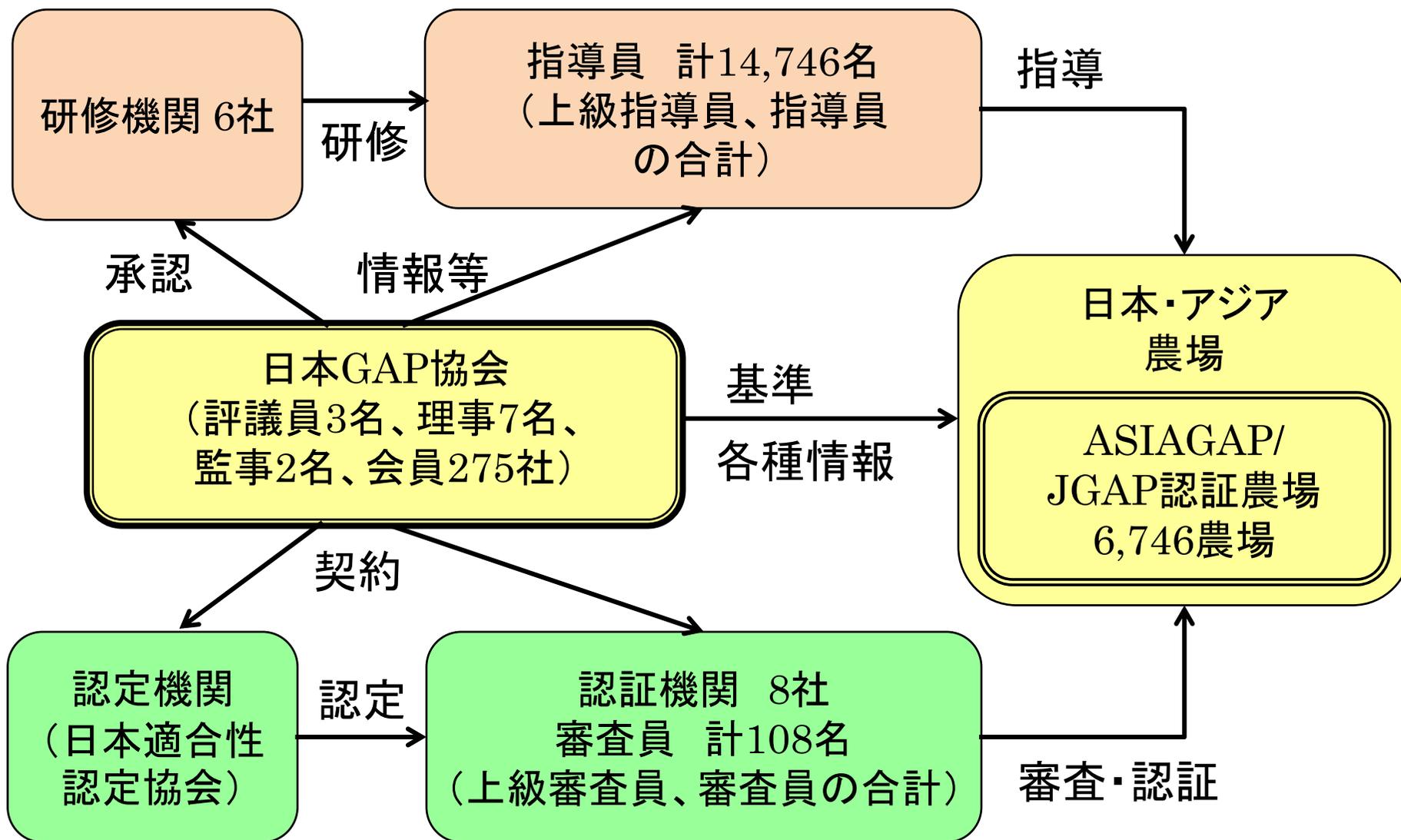
---

## ASIAGAP/JGAP認証農場は6,746農場（2020年3月末）



※各年3月末現在。認証農場数は、個別認証の農場数と団体認証の所属農場数の合計である。

- ✓ 日本国内において第三者認証の仕組みを持つGAPとして最多。
- ✓ うちASIAGAPは、認証農場数2,404、認証数412（2020年3月末）。



注1: 2020年3月末時点。青果物、穀物、茶、家畜・畜産物の合計

注2: 家畜・畜産物の審査・認証機関は日本GAP協会による認定

# 日本GAP協会ウェブサイト(2020年3月リニューアル) ASIAGAP JGAP

**JGF** 一般財団法人 日本GAP協会  
Japan GAP Foundation

日本GAP協会について・ GAP認証について・ ログマーク・ 指導員・審査員になるには・ ドキュメント・ Q&A

検索 | 地球アイコン ENGLISH

日本の豊かな農業を、未来につなぐために。

## JGAP

### ASIAGAP / JGAP

良い農作物選びは、良い農場選びから

ASIAGAP/JGAPは、農場やJA等の生産者団体が活用する農場管理の基準です。  
農薬・肥料の管理など、持続可能な農業につながる多くの基準が定められています。

英語版もあります

ASIAGAP Ver.2.3 (2020年10月1日発表、2020年11月1日より運用開始)

## 総合規則

[総合規則 Ver.2.3](#) PDF

## 農場用 管理点と適合基準

[青果物 Ver.2.3](#) PDF

[穀物 Ver.2.3](#) PDF

[茶 Ver.2.3](#) PDF

## 団体事務局用 管理点と適合基準

[団体事務局用 管理点と適合基準 Ver.2.3](#) PDF

## 主要改定点一覧

[主要改定点一覧 ASIAGAP 総合規則 Ver.2.3](#) PDF

[主要改定点一覧 ASIAGAP 農場用管理点と適合基準 V](#)

[主要改定点一覧 ASIAGAP 団体事務局用管理点と適合](#)

## JGAP基準書 (家畜・畜産物)

### 家畜・畜産物

[総合規則 2019](#) PDF

[農場用 管理点と適合基準 2017 \(2019年3月29日 変更\)](#) PDF

[団体事務局用 管理点と適合基準 2017](#) PDF

[JGAPと農場HACCP認証基準との差分に関する文書 \(2019年3月29日 変更\)](#) PDF

### 家畜・畜産物 英語版

[農場用 管理点と適合基準 2017](#) PDF

[団体事務局用 管理点と適合基準 2017](#) PDF

ASIAGAPおよびJGAPの基準書は、全てHPに掲載。  
英語版も掲載。

# ロゴマークについて(日本GAP協会ウェブサイト)



使用者	使用範囲	ASIAGAP		JGAP		
		 認証プログラム ロゴマーク	 Reg. A123456789 認証農場 ロゴマーク	 認証プログラム ロゴマーク	 Reg. 123456789 認証農場 ロゴマーク	 Reg. 123456 農畜産物使用ロ ゴマーク
ASIAGAP認証農 場・団体	名刺・看板・車両	-	○	-	-	-
	農場（または認証農畜産物（*1））の ウェブサイト・パンフレットなどの販 促資材	-	○	-	-	-
	認証農畜産物（*1）の包装・梱包資材	-	-	-	-	-
	商品（*2）の包装・梱包資材	-	-	-	-	-
	商品（*2）のウェブサイト・パンフ レットなどの販促資材	-	-	-	-	-
JGAP認証農場・ 団体	名刺・看板・車両	-	-	-	○	-
	農場（または認証農畜産物（*1））の ウェブサイト・パンフレットなどの販 促資材	-	-	-	○	-
	認証農畜産物（*1）の包装・梱包資材	-	-	-	○	-
	商品（*2）の包装・梱包資材	-	-	-	-	○
	商品（*2）のウェブサイト・パンフ レットなどの販促資材	-	-	-	-	○

※日本GAP協会ウェブサイトにおける説明画面の抜粋。

JGAP認証農畜産物の使用者は、JGAP農畜産物使用ロゴマークを利用可能。

申請書などの詳細はウェブサイトをご覧ください。



指導員検索も用意。認証農場検索と同様に検索可能。  
また、指導ができる会員リストも掲載。

『認証農場』検索

検索フォームのスクリーンショット。キーワード入力欄には「登録番号または農場名」が入力されている。所在地、ASIAGAP/JGAPの版、品目名（野菜）、品目名（果物）、品目名（穀物）、品目名（茶）、品目名（畜産）の各項目には「選択しない」が選択されている。検索ボタンと条件クリアボタンが下部にある。

都道府県毎や、その下のオプションでは基準書の版や品目別にも検索でき、認証農場名等を一覧することが可能。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会における食材調達基準は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が決定。

## 持続可能性に配慮した運営計画 フレームワーク(2016年1月)

- 気候変動、資源管理、水・緑・生物多様性、人権・労働・公正な事業慣行等への配慮、参加・協働
- ISO20121(Event Sustainability Management System)の導入

## 持続可能性に配慮した調達コード 基本原則(2016年1月)

- 組織委員会が調達する全ての物品・サービス及びライセンス製品が対象

東京2020大会の食材調達基準の策定については、2016年8月より組織委員会の「持続可能な調達ワーキンググループ」において議論が進められ、**2017年3月に決定された。**

また、この調達基準の決定を受け、「東京2020大会 飲食提供に係る基本戦略」は、2018年3月に公表された。

農産物及び畜産物の調達基準は、東京2020大会の持続可能性に配慮した準備・運営に資するとともに、持続可能な社会の実現に向けた**東京2020大会の「レガシーの創出(未来への継承)」**の一環としての役割を持つ。

## ➤ 農産物

- ✓ **食材の安全を確保**するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令に照らして適切な措置が講じられていること。
- ✓ **周辺環境や生態系と調和のとれた農業生産活動を確保**するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ✓ **作業者の労働安全を確保**するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令に照らして適切な措置が講じられていること。

## ➤ 畜産物

- ✓ 食品安全、環境保全、労働安全は農産物と同様。
- ✓ **快適性に配慮した家畜の飼養管理**のため、畜産物の生産に当たり、アニマルウェルフェアの考え方に対応した使用管理指針に照らして適切な措置が講じられていること。

要件を満たすことを示す方法として、ASIAGAP、JGAP等のGAP認証が必要とされた。**⇒GAP認証は、見えない価値を「見える化」するもの**

## ◆ Global Food Safety Initiative –世界食品安全イニシアティブ–

GFSIの中心的な活動の一つとして、食品安全にかかわる認証プログラムについて、その適合性を判定・承認する仕組み(ベンチマーク)を提供し、同等性を評価・承認。GFSI から承認された認証プログラムは、信頼に足る食品安全の認証制度として認識される。対象は下記の農業分野から小売まで、フードチェーン全てとなる。

GFSI Benchmarking Requirementsの農業に関する適用範囲(カテゴリー)  
 ※ **ASIAGAPは下記のB I 及びBIII(青果物・茶)、B II 及びBIII(穀物)で承認を取得**

カテゴリーコード	カテゴリー名	製品／サービスの例および製造方法
AI	肉／乳／卵／蜂蜜のための畜産	肉、卵、乳または蜂蜜の生産に利用される(魚および海産物以外の)動物の飼育。 育成、保護、わなによる捕獲、狩猟(狩猟時の屠殺)。 製品の改変または加工をしない、農場での関連暫定パッキング。
AII	魚および海産物の生産	魚肉の生産に利用される魚および海産物の飼育。 養殖、保護、わなによる捕獲、漁獲(水揚げ時の殺処理)。 製品の改変または処理をしない、養殖場での関連暫定パッキング。
BI	農業(穀類および豆類以外)	食用の園芸作物および水生植物を含む、(穀類および豆類以外の)植物の栽培または収穫。 食用の園芸作物および水生植物を含む、(穀類および豆類以外の)農場での植物の保管。
BII	穀類および豆類の農業	食用の穀物および豆類の栽培または収穫。 食用の穀類および豆類の農場での保管。
BIII	植物性製品の加工前処理	食用の園芸作物および水生植物を含めて、製品を完全に保つ、収穫された植物に関する活動。 製品を収穫された元の形態から著しく変容させない洗浄、水洗い、すすぎ、水路運送、分類、等級付け、トリミング、バンドリング、冷却、水冷、ワックス作業、水浸し、パッキング、再パッキング、集結、保管、積み込み／またはその他の処理活動。

# 「GFSI」の詳細、食品安全認証プログラムの承認

### 設立の背景

- ◆ 食品事故の多発
- ◆ 原料の調達・加工・生産のグローバル化
- ◆ 監査コストの増大
- ◆ 認証の仕組みの乱立

↓

**食品安全のグローバル規格の必要性を共有**

↓

2000年5月 GFSI発足  
世界的に展開する主要食品企業により、フードサプライチェーン全体の安全性の向上に協働的に取り組む非営利財団として発足

### ビジョン、ミッション、目的

ビジョン

すべての消費者に安全な食品を

ミッション

世界中の**消費者の信頼**を得るため、食品安全での継続的改善を推し進める

目的

- ・**食品安全リスクの低減**
- ・**コストの最適化**
- ・能力開発・力量向上
- ・知識の交流ネットワーキング

### ボードメンバー(2020年)

Chair

- ・モンデリーズ Roy KIRBY氏
- ・コストコ Craig WILSON氏

Vice-Chairs

- ・アマゾン Carletta OOTON氏
- ・ダノン Monique PELLEGRINO氏

Member

- コカコーラ
- ネスレ
- カルフール
- ウェグマンズ
- マクドナルド
- クローガー
- ウォルグリーン
- ウォルマート
- タイソン
- イオン
- セインズベリー
- 中糧集団有限公司
- スターバックス
- ペプシ
- カーギル
- ドール
- アホールド
- オーシャン
- メトロ
- 新希望六和股份有限公司

### 食品安全認証プログラムの承認

GFSI

↓ 承認 ↓

ベンチマーキング要求事項との同等性を評価

1. 組織への要求事項  
(1)HACCP  
(2)食品安全マネジメント  
(3)適正規範(GAP, GMP等)
2. 認証の仕組みへの要求事項  
(認証の信頼性を高める仕組み)

ベンチマーキング要求事項

**食品安全認証プログラム間で等価性を図り、収束させることにより、食品安全リスクを軽減するとともに、コストを最適化する。**

1. と2. の両方を承認	Freshcare (豪)	GRMS (デンマーク)	SQF (米)
※ 括弧内は本部のある場所	ASIAGAP (日)	FSSC22000 (蘭)	IFS (独)
BRC (英)	Global Aquaculture Alliance (米)	JFS-C (日)	1. のみ承認 <small>(政府規格技術的同等性承認)</small>
CANADAGAP(加)	GLOBALGAP.(独)	PrimusGFS (米)	China HACCP (中) ほか 2プログラム

※ 赤枠は青果物の認証プログラムが承認されているもの

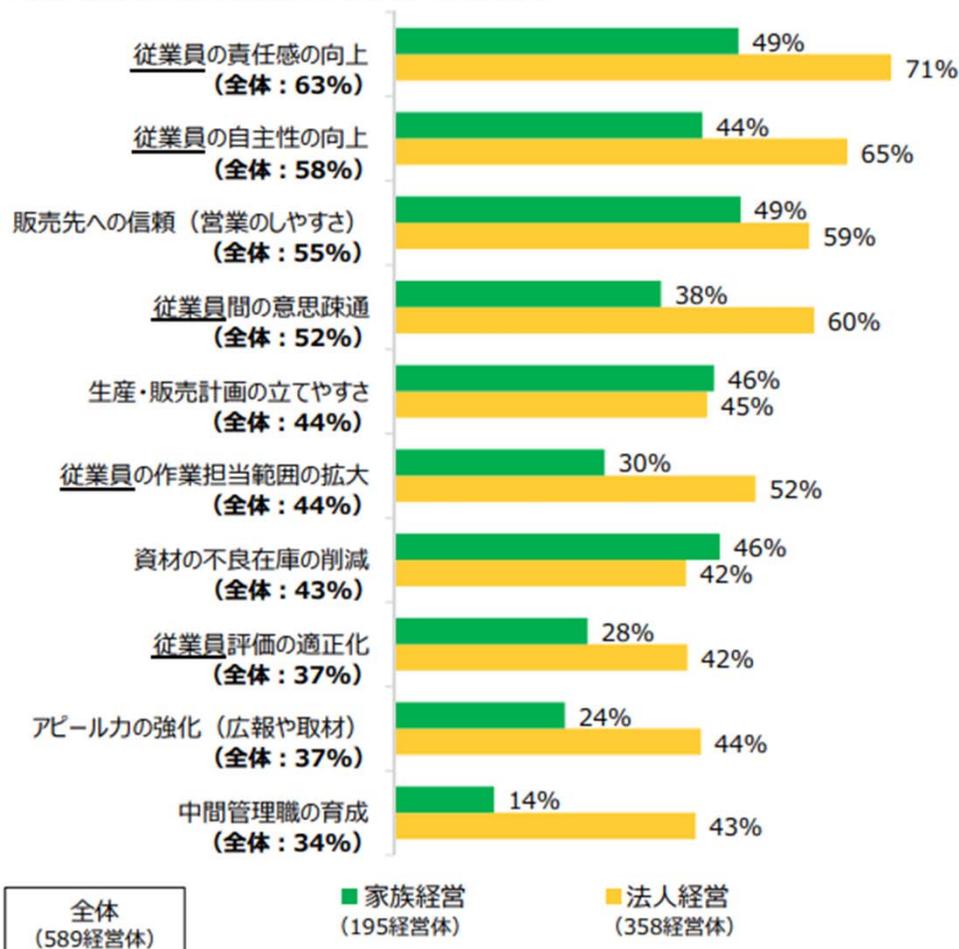
※農林水産省資料から抜粋・加筆

### 5. GAP導入前後の改善状況

#### 回答結果

<個別経営体及び団体認証の構成経営体の場合>

28項目について、「かなり改善した」「改善した」「やや改善した」と回答した者の割合が高い順に上位10項目までを整理



※全体には、経営形態が不明の36経営体を含む。

#### 分析

- 上位10項目のうち、従業員に関する効果の項目が半数を占めたこと、また、法人経営の方が改善したと回答した割合が高いことなど、GAPは従業員の意識改革に有効。
- 農業生産に関する効果のうち、「販売先への信頼 (営業のしやすさ)」「生産・販売計画の立てやすさ」「資材の不良在庫の削減」については、家族経営と法人経営で割合に大きな差異はなく、経営形態に関わらず効果を発揮。

## 2. 2020年のASIAGAP/JGAP

---

2020年は新型コロナウイルス感染症に対応するため、**認証の信頼性の維持と、緊急時の対応を両立**させた各種の対策を実施。下記はその一例。

➤ 認証の有効期限の延長

認証機関及び農場・団体が維持審査、更新審査を通常通り実施することが困難な場合、認証継続の適切性の判断等を前提に有効期限の6カ月延長を可能とした

➤ 審査員、指導員の更新への特別対応

審査員資格の継続時に定められた審査件数を満たせない場合の猶予期間の設定、指導員補であってもASIAGAP基礎差分研修の受講可能など

➤ 認証農場、研修機関に対する注意喚起

新型コロナウイルス対策に資するASIAGAP/JGAPの管理点の解説、集合研修の実施における感染症対策の実施など

➤ 遠隔審査ガイドラインの発行(後述)

➤ オンライン研修のトライアル実施～ガイドラインの発行

オンライン研修のトライアル実施から、その実施状況を踏まえてのガイドラインの発行

今般のICT機器の発展や、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大等を背景に、ASIAGAP/JGAPの審査における遠隔審査への対応に向け、ICTを利用した遠隔審査ガイドラインを発行

## <遠隔審査における留意事項>

- 遠隔審査とは、ICT機器(スマートフォン、パソコン、ビデオカメラなど)を用いて審査員が農場以外の場所から審査を行うもの
- 初回審査には適用されない
- 遠隔審査ではパソコンやビデオカメラ等のICT機器の操作が行えることと、審査に対応できるレベルの通信環境が必要
- 信頼に足る審査を実施するため、認証機関は、事前の接続テストや遠隔審査におけるリスク評価を行い、遠隔審査実施の可否を判断
- ASIAGAPは、GFSIのルールにより、現地審査と遠隔審査を組み合わせたの実施が必須
- 現時点では一部の認証機関の対応にとどまることから、認証機関への事前の問い合わせが必要(なお、問い合わせの前に審査を希望する分野のガイドラインの内容を必ず確認し、農場がガイドラインの内容に対応しているかのチェックが必要)
- ガイドラインは、ASIAGAP、JGAP農産物、家畜・畜産物について発行しており、日本GAP協会ウェブサイトに掲載(ASIAGAPとJGAPはルールが異なる)

- ◆ 審査員、指導員、農場に対する能力開発のプログラムとして多様な研修メニューを提供
  - JGAP指導員基礎研修: JGAPの基礎を学ぶ
  - 団体認証研修: 事務局の運営や内部監査の考え方など団体認証を学ぶ
  - JGAP指導員現地研修: 農場への指導方法を農場で学ぶ
  - ASIAGAP指導員基礎差分研修: ASIAGAPとJGAPの差分を学ぶ
  - 特別研修: 現在は「リスク評価研修」を実施
  - JGAP審査員研修: JGAP審査員となるための基礎を学ぶ
  - インターネット研修: 知識の向上と指導員資格更新

・JGAP指導員基礎研修、団体認証研修、ASIAGAP指導員基礎差分研修はオンラインによる実施に対応

・随時更新される研修予定は日本GAP協会ウェブサイトに掲載  
(<https://jgap.jp/judge/schedule.html>)

現在のASIAGAP/JGAPの運用中の版

- ◆ ASIAGAP Ver.2.3
- ◆ ASIAGAP Ver.2.2 (2021年10月末まで新規の審査を受付)
- ◆ JGAP 2016 (家畜・畜産物は2017)

## <JGAPについて>

- ✓ 10年以上の運用実績を持ち、日本の標準的なGAPとして必要十分な内容。
- ✓ 青果物、穀物、茶に加えて家畜・畜産物にも対応し、乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏、肉用鶏の生体と生乳、鶏卵を対象として、家畜衛生、アニマルウェルフェアへの配慮といった畜産特有の内容を含む。

## <ASIAGAPの特徴>

- ✓ Codex-HACCPに準拠した食品安全のリスク管理
- ✓ 食品安全文化、食品防御、食品偽装への対応
- ✓ 文書化、リスク評価のより幅広い導入
- ✓ アレルゲン表示や、アレルゲン物質の交差汚染への対応
- ✓ 一定割合の農場に対する非通知の審査(総合規則) ……など

## <改定のポイント>

GFSIが2020年2月、6月に公表した GFSI Benchmarking Requirements Version 2020 および小改定版となる Version 2020.1 (BR 2020.1) に対応した版。

(改定の概要)

- ・新たな用語「サイト」の定義など、農場の定義、団体認証の対象(範囲)の整理
- ・団体認証における審査対象サンプリング時のリスク評価
- ・非通知審査の義務づけ
- ・審査員登録要件の整理と審査員試験の廃止
- ・ICT使用に関する規定の追加
- ・新たな概念である「食品安全文化」の醸成の追加

## <参考:ASIAGAPのGFSI承認の概要>

- 基準文書:ASIAGAP Ver.2 青果物、穀物、茶、ASIAGAP 総合規則 2017
- 承認されたセクター:B I (植物の生産)、B II (穀類・豆類の生産)、D(植物性食品の前処理(Ver.2020ではB III))
- GFSI評価の基準文書:GFSI Benchmarking Requirements (BR) Version 7.1
- 承認日:2018年10月31日
- ※ 現在、GFSI BRの新たな版である Ver.2020.1によるRe-Benchmarkingが進行中

### 3. これからのASIAGAP/JGAP

---

## SDGs (持続可能な開発目標) とは

SDGsは、2015年9月の国連サミットで150を超える加盟国首脳に参加のもと、全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた、「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」のことです。

SDGsは、先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標として、17のゴールとその課題ごとに設定された169のターゲット (達成基準) から構成されます。

それらは、貧困や飢餓から環境問題、経済成長やジェンダーに至る広範な課題を網羅しており、豊かさを追求しながら地球環境を守り、そして「誰一人取り残さない」ことを強調し、人々が人間らしく暮らしていくための社会的基盤を2030年までに達成することが目標とされています。

環境、経済、社会を三層構造で示した木の図



資料：環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクト「持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究」より環境省作成

※農林水産省ウェブサイト掲載資料「SDGs×食品産業」から抜粋

### <日本GAP協会の考え方ーウェブサイトよりー>

農業は、地球環境と密接に結びついている産業です。持続的な農畜産物の生産には、土、水、気温といった自然環境が事業の将来を左右します。  
継続的に農業を続けていくには、働く人の安全確保や福祉の充実、人材育成、差別のない職場環境など、将来を担う人材を確保するための取組が必要です。  
食料である農畜産物を持続的に生産することは、貧困や飢餓という社会的な課題にも関わります。  
**日本GAP協会は、ASIAGAP/JGAPの認証プログラムを通して、世界共通の目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献します。**

	取組	関連するSDGs目標
<p>信頼される農場管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農場管理手順の見える化</li> <li>責任体制の見える化</li> <li>機械・設備・車両などの点検・整備のルール化</li> </ul>	
<p>食品安全の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産工程の整理</li> <li>食品安全におけるリスク評価とその対策・検証</li> <li>食品防衛や食品偽装の防止</li> <li>土・水・肥料・農薬・動物用医薬品など資源の管理</li> </ul>	
<p>環境保全の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化への対策</li> <li>生物多様性や周辺環境への配慮</li> <li>廃棄物の管理や資源の有効利用</li> <li>地域社会との共生</li> </ul>	
<p>作業者の安全確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業者の労働安全対策</li> <li>労働事故の防止</li> <li>労働災害に対する備え</li> </ul>	
<p>作業者の人権福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働基準法などの法令遵守</li> <li>使用者と作業者とのコミュニケーション</li> <li>差別・強制労働などの禁止</li> <li>作業者の健康状態の管理</li> <li>手洗い・トイレ設備の衛生管理</li> </ul>	

※ ASIAGAP/JGAP農産物の例。各管理点は様々なSDGs目標と関連

SDGsなど最新の持続性に係る世界の潮流を踏まえ、かつ食品安全の最新動向にも対応しつつ、一層のわかりやすさを持つ基準書作りを目指す

## <改定の基本的考え方>

### (1) 開発ビジョンの明確化

- ・ 現行の基準書の理念をベースに以下を盛り込む
  - ✓ JGAPに取組む誇り、意義
  - ✓ SDGsとGAPの関連
- ・ 持続性に係る世界の潮流の管理点への反映
  - ✓ SDGs、環境等への対応の強化(分かりやすく実効性のあるものに)
  - ✓ 温室効果ガス等の対策の反映

### (2) 管理点と適合基準のレベルと表現

- ・ 現行のJGAP(2016/2017)と同程度のレベルとする
  - ✓ 目的と意図がより明確に分かる基準書
  - ✓ 管理点の目的を端的に記載
- ・ 記載内容を簡易かつ明確にする
  - ✓ 研修の受講により、農場自身に対応できる内容
  - ✓ 審査基準として、誰が見ても明らかな内容

## ➤ 遠隔審査の取組の促進

- ✓ トライアル実施の促進を通じたノウハウの蓄積と普及

## ➤ 研修の運用の改善

- ✓ 指導員のスキルアップにつながる団体認証研修、現地研修等の開催回数  
の増加、ネットワークの活用

## ➤ アジア普及に向けた取組

- ✓ アジアに向けた普及活動の戦略的な実施

## ➤ GFSIへの対応

- ✓ 承認CPO (Certification Program Owner) の一員として、ルールメイキン  
グに関与
- ✓ ASIAGAP Ver.2.3のBR Ver.2020.1に対するRe-Benchmarkingの完遂

## ➤ 情報発信の強化

- ✓ GAP認証の持つ普遍的な価値 — 食品安全、持続可能性、信頼 — を食品  
産業、消費者に普及
- ✓ 日本GAP協会ウェブサイトにおける取組事例等の発信

- 東京2020大会後を見据えた国の政策の方向
  - ✓ 全ての産地で国際水準GAPを実施・・・農林水産省GAP共通基盤ガイドラインを改訂した国際水準GAPガイドライン(試行版)を2020年12月に公表
  - ✓ 食品安全の強化・・・「栽培から出荷までの野菜の衛生管理指針」の改訂
  - ✓ 「みどりの食料システム戦略」の検討
  - ✓ 輸出促進対策の推進

## ➤ 今後の展望

### ◎ これからもGAPの必要性は上昇

- ✓ 持続可能性をテーマとする「SDGs」への注目
- ✓ 食品衛生法の改正によるHACCP制度化・・・フードチェーンの起点であり原材料を供給する農業への注視、GAP認証へのニーズの上昇
- ✓ アジアにおけるGAPへのニーズの高まり
- ✓ GAPは東京2020大会のレガシー(未来に継承すべきもの)

日本・アジアにおける食の安全と農業の持続可能性への貢献

私たちは信頼できる農場の目印“ASIAGAP/JGAP”を創っています。



一般財団法人 日本GAP協会

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番29号 日本農業研究所ビル 4階

TEL: 03-5215-1112 / E-mail: [info@jgap.jp](mailto:info@jgap.jp) / <https://jgap.jp>

- 日本GAP協会メールマガジンを無料配信しています。日本GAP協会ウェブサイトからの登録、または[info@jgap.jp](mailto:info@jgap.jp)へメールマガ希望とメール下さい。
- 日本GAP協会では、GAPの普及のために共に活動して頂ける会員を募集しています。日本GAP協会ウェブサイトの「日本GAP協会について」をご覧ください。